

2020年11月30日

青年海外協力隊事務局  
参加促進課

2020年9月26日全国オンラインキャラバンQ&A

2020年9月26日に実施いたしました全国オンラインキャラバンのQ&Aを以下の通りまとめました。

応募を検討されている方の参考になれば幸いです。

	質問	回答
新型コロナウイルスの影響関連	<p>コロナにより今後の募集と派遣がどの様になるのかを教えてください。</p>	<p>今後の募集については、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえつつ判断します。11月頃を目途に、JICA海外協力隊ウェブサイトにてお知らせします。( <a href="https://www.jica.go.jp/volunteer">https://www.jica.go.jp/volunteer</a> ) また、派遣については現時点で次の通りの派遣時期を目指しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一時帰国隊員：年内再派遣</li> <li>・2019年度3次隊：2021年1月派遣（ただし、派遣となる国、隊員は限定的になる可能性もあり）</li> <li>・2020年度1次隊：2021年4月訓練開始予定</li> <li>・2020年度2次隊・3次隊：2021年9月以降訓練開始予定</li> </ul>
	<p>今は各国の状況や現地の方々とどのやりとりを前向きにされていますか。</p>	<p>各国の状況を鑑みて派遣を再開していくため、現地の方々と前向きにやり取りをしています。</p>
	<p>現在活動中止、訓練延期をされている隊員もいらっしゃると思いますが、コロナが落ち着いた場合、そのような隊員がやはり優先されますか。</p>	<p>新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、随時派遣を再開していく予定ですが、まずは一時帰国をしている隊員からの派遣再開となります。また、訓練延期のため訓練を待っている方々に関しては、訓練再開次第、随時派遣していきます。</p>
	<p>アフターコロナで派遣を再開した場合、途上国からの要請はやはりかなり減少する見込みですか。</p>	<p>今後の募集については、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえつつ判断しますので、見込みについてお答えすることができません。</p>
	<p>訓練が延期してしまった隊員の方はもう一度面接や試験を受け直さなければなりませんか。</p>	<p>訓練延期の方は再度応募していただく必要はありません。ただし、訓練を辞退された場合は、再度応募していただく必要があります。</p>
	<p>来年春の応募に対する各国からの要請は本年末になると思いますが現地JICA事務所には1名しかおられないとのこと。各国からの要請書は受けられますか。</p>	<p>今後の募集・選考については、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえつつ判断します。詳細は11月頃を目途に、JICA海外協力隊ウェブサイトにてお知らせします。( <a href="https://www.jica.go.jp/volunteer">https://www.jica.go.jp/volunteer</a> )</p>
	<p>今年秋の応募を検討していました。募集再開までの期間、何か少しでもJICAの活動に参加できませんか。</p>	<p>これから応募を検討されている方が、JICA海外協力隊として日本国内で活動していただける場所はありませんが、「世界の笑顔のために」( <a href="https://www.jica.go.jp/volunteer/outline/smile/">https://www.jica.go.jp/volunteer/outline/smile/</a> ) プログラムにて、開発途上国の方のサポートにご協力いただくことが可能です。</p>
	<p>募集開始となったら待機されている方の後になると思いますが、そうすると合格したとしても派遣はだいぶ先ということになりますか。</p>	<p>新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を踏まえ、再派遣できる方から随時派遣を再開していく予定です。既に訓練を終えた待機中の隊員や、選考を終えた合格者の方が、先に派遣されるケースが多いと考えられますが、再派遣の可否は派遣先のニーズや待機中の隊員の状況にもよります。そのため一概に、合格しても派遣はだいぶ遅くなるとはお答えできません。</p>
	<p>2021春の短期派遣は中止で間違いありませんか。</p>	<p>2021年度の短期派遣募集・選考の時期や回数は現在、検討中です。今後の募集については、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえつつ判断します。JICA海外協力隊ウェブサイトにてお知らせします。( <a href="https://www.jica.go.jp/volunteer">https://www.jica.go.jp/volunteer</a> )</p>
	<p>コロナで募集が停止されている間にしておいた方が良いことはありますか。</p>	<p>まずは、なぜ、協力隊を目指すのか、協力隊に参加して何がしたいのかを再度、明確にしておくことをおすすめします。そして、語学力を向上させることやJICA海外協力隊ウェブサイトにある様々な協力隊を紹介するコンテンツを見て、様々な角度から協力隊について知っておく機会としてください。 ( JICA海外協力隊ウェブサイト-「JICA海外協力隊を知る」( <a href="https://www.jica.go.jp/volunteer/spcontent/">https://www.jica.go.jp/volunteer/spcontent/</a> ) から協力隊の紹介コンテンツが閲覧できます。 )</p>

質問		回答
新型コロナウイルスの影響関連	準備、実際の活動で、今、日本でもできることはありますか。	まずは、なぜ、協力隊を目指すのか、協力隊に参加して何がしたいのかを再度、明確にしておくことをおすすめします。そして、語学力を向上させることやJICA海外協力隊ウェブサイトにある様々な協力隊を紹介するコンテンツを見て、様々な角度から協力隊について知っておく機会としてください。 (JICA海外協力隊ウェブサイト-「JICA海外協力隊を知る」( <a href="https://www.jica.go.jp/volunteer/spcontent/">https://www.jica.go.jp/volunteer/spcontent/</a> ) から協力隊の紹介コンテンツが閲覧できます。)
	日本での活動は何かありますか。	これから応募を検討されている方が、JICA海外協力隊として日本国内で活動していただける場所はございませんが、「世界の笑顔のために」( <a href="https://www.jica.go.jp/volunteer/outline/smile/">https://www.jica.go.jp/volunteer/outline/smile/</a> )プログラムにて、開発途上国の方のサポートにご協力いただくことが可能です。
	関東の対面の説明会は、いつ頃再開するか目途はたっていますか。	今後の募集・選考については、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえつつ判断します。
	できる限り現地に行くことが重要だと思いますが、日本から海外とつながり、活動できるのも活動はないですか。	開発途上国の支援は日本においても可能です。例えば、国際協力を活動テーマとする日本のNGO/NPOの活動に参加・支援することで国際協力に係る活動を行うことが可能で、開発途上国とのつながりもできます。
	21年春募集について、面接等選考は今まで通り対面ですか。海外からオンライン面接等も可能ですか。	今後の募集・選考については、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえつつ判断します。11月頃を目途に、JICA海外協力隊ウェブサイトにてお知らせします。( <a href="https://www.jica.go.jp/volunteer">https://www.jica.go.jp/volunteer</a> )
	春募集は中止になりましたが、その際、受験回数のカウントに入りますか。	2020年春募集に応募された方は、受験回数としてカウントしません。
応募・選考について	今後、派遣が再開された際、合格となった場合には、派遣時期(赴任のタイミング)を選ぶことができますか。	配属先が受入可能な時期が要望調査票に記載されており、募集期ごとに派遣される時期(隊次)が決まっています。応募の際に派遣可能な隊次について事前にお聞きしますので、応募者と受け入れ側双方の都合を勘案して選考を行います。また、二次選考の際、再度募集期における訓練・派遣日程の最終確認いただき、万一都合がつかない隊次がある場合、申告していただければ、赴任できない隊次に派遣されることはありません。
	倍率を教えてください。	JICA海外協力隊の選考結果は、最終可否の発表後、JICA海外協力隊ウェブサイトのお知らせに掲載しています。職種や募集期により、倍率は変動しますが、要請毎に選考基準が異なるため、各職種の単純倍率だけでは、合格の難易度を判断できない場合もあります。試験倍率は参考程度としてとらえてください。 2019年秋募集における一般案件応募者数1,250人、二次合格者数542人。シニア案件については応募者数150人、二次合格者数32人でした。 2019年度秋募集一般案件の選考結果は ▶ <a href="https://newsreader.jica.go.jp/news/2019au_jv_toukei_200312.pdf">https://newsreader.jica.go.jp/news/2019au_jv_toukei_200312.pdf</a> 2019年度秋募集シニア案件の選考結果は ▶ <a href="https://newsreader.jica.go.jp/news/2019au_sv_toukei_200312.pdf">https://newsreader.jica.go.jp/news/2019au_sv_toukei_200312.pdf</a>
	大学名は合否に影響がありますか。	JICA海外協力隊は受入国からの要請に基づいて派遣をしており、要請の中で学歴を条件の一つとして指定される場合があります。例えば、大学に配属され、そこで指導をしている先生に指導方法を教えるといった要請で「大卒以上」あるいは「修士以上」の学歴が求められる場合などがあります。この場合、要請の資格条件の欄に「大卒」と記載され、応募の際に必要な条件となりますが、どこの大学を卒業しているかは合否に関係ありません。
	地方大学より有名大学のほうが合格しやすいなどありますか。	

質問		回答
応募・選考について	派遣出発時の定年は、2020年4月時63歳ですか。	JICA海外協力隊は69歳まで（応募時点）の方が応募可能です。
	67歳です。最後のご奉仕で頑張ろうと思いますが、派遣可能ですか。	各回の募集要項にて、応募要件をご確認ください。今後の募集・選考については、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえつつ判断します。JICA海外協力隊ウェブサイトにてお知らせします。 ( <a href="https://www.jica.go.jp/volunteer">https://www.jica.go.jp/volunteer</a> )
	健康診断があるとのことですがBMIが18.5以下の場合、不合格になってしまいますか。	日本肥満学会の定めた基準では18.5未満が「低体重（やせ）」、18.5以上25未満が「普通体重」、25以上が「肥満」とされており、JICAでもこれに準じて、総合的に判定し可否を決定します。  参考までに、以下の一般的基準値一覧もご確認ください。 <a href="https://www.jica.go.jp/volunteer/application/seinen/physicalcheck/pdf/kenkou_referencelist.pdf">https://www.jica.go.jp/volunteer/application/seinen/physicalcheck/pdf/kenkou_referencelist.pdf</a> 日本とは生活環境（食事、気候、ライフライン、文化背景等）や医療事情が大きく異なる開発途上国に長期間、生活の場が移るという特殊性を考慮し、そこでも健康に暮らすことが出来るよとの観点から、健康判定は慎重に行っていますので予めご理解ください。
新卒参加について	新卒採用で協力隊に参加したいと思っているのですが、新卒採用された方は就職活動などはどうされましたか。	新卒者でもJICA海外協力隊への参加一本に絞りを、準備をされた方も中にはいらっしゃるようですが、就職活動と並行してJICA海外協力隊に応募した新卒者が多いようです。
	新卒、現職、退職採用の割合はどのくらいですか。	JICA海外協力隊は雇用ではありませんので「採用」ではなく、「参加」していただくものです。 なお、2019年秋募集、長期一般とシニア、二次選考で合格になった方（その後の辞退も含む）の合格時の状況は以下のとおりです。  対象者数：574名（一般：542名、シニア：32名） 現職参加：92名（16.0%）（一般：91名、シニア：1名） 退職参加：一般：309名（53.8%）（一般：289名、シニア：20名） 応募時学生：93名（16.2%）（一般：93名、シニア：0名） 無職：52名（9.0%）（一般：42名、シニア：10名） その他：28名（4.8%）（一般：27、シニア：1名）
	文系の新卒はどんな募集職種につくことが多いのですか。	応募者のこれまでの経験や資格を元に職種を選択されているため「文系の新卒はこれ！」といった職種は特にはありません。
職種について	企業でIT責任者として20年以上の経験があります。技術は多少ありますが人材育成や組織運営が中心でした。どのような職種が適当ですか。	「コンピュータ技術」「PCインストラクター」職種については個別の要請内容を確認していただき、ご自分の技術・経験を活かせる活動内容かご判断ください。「PCインストラクター」は「コンピュータ技術」ほどのICT技術レベルは求めないものも多いですが、子供などに教える技術や経験が生かせる職種です。組織運営経験が生かせる職種としては、「経営管理」等の要請内容もご確認くださいてもよいかもしれません。
	サラリーマンとして、営業・経理をやってきましたが、シニアとしてやれる職種はありますか。	営業・経理領域の経験・スキルを活かせる職種での応募は一般案件をおすすめします。営業経験が生かせる職種としては「コミュニティ開発」「環境教育」です。営業のためのマーケティング経験があれば、「マーケティング」職種もあります。また、日常的にPCを使用し、ITパスポートなどの資格を保持していれば「PCインストラクター」の可能性もあります。ただし、一部の一般案件は対象年齢が45歳まで制限がある案件があります。
	中高での英語の教員経験が活かせる職種があれば教えてください。	「青少年教育」の中で、英語教員経験を生かせる要請がいくつかあります。もし英語教員以外の資格もお持ちであれば、種類によっては「小学校教育」等においても経験やスキルを活かせる要請もあります。また英語教員以外の経験やスキル等から職種を考えてみる方法もあります。但し、現職教員特別参加制度での応募については、専用の要請（教育分野の要請に限る）となります。

	質問	回答
職種について	<p>公立学校教員が、協力隊を目指す場合どのようなことを準備すべきですか。</p>	<p>教育系の職種は教員の方の経験・スキルが活かれます。教育系の職種には①専門科目教育（数学、理科、美術、音楽）②総合教育（幼児教育、小学校教育）、③健全育成自立支援（青少年活動）があります。学校教育に携わる場合は、教員免許状が必須のケースが多いので、更新忘れなどがないようにご注意ください。</p> <p>いずれの職種でも、途上国の文化や価値観を尊重し、現地の同僚と共に活動する協調性が必要です。また開発途上国では、教材や補助ツールなどが十分でない場合があるので、不足しているものは自身で作成するなど柔軟な姿勢や創造性が必要になってきます。また語学力は応募に必要なDレベル以上はもちろんですが、コミュニケーションツールとして、他の要請以上に高い語学力が求められることも多いので語学力の向上についても準備されることをおすすめします。</p>
	<p>人よりも自然や環境保全に関わる職種はありますか。</p>	<p>環境保全に係る職種で代表的なものは「環境教育」です。農業の知識や経験があれば、「食用作物・稲作栽培」、「野菜栽培」、「果樹栽培」、「きのこ栽培」、「林業・森林保全」等の農林水産系の職種もあります。</p>
	<p>環境教育で応募が考えていますが、子供を相手に活動したことが少ないのですが、これまでの経験を活かして活動することを面接で伝えれば問題ないですか。</p>	<p>環境教育は、「ゴミ問題」「自然保全」「環境理解」をテーマに、任地の課題改善に向けての活動を展開していきます。行政機関や自然保護地域で「イベントや研修会の企画・運営」「学校巡回授業」「教材の開発」「広報ツールの作成」「展示の改良」「コンポストの普及」「グループ育成・人材育成」「モニタリング」「ツアー」「ゴミ処理ルートや方法の改善」「他団体との交流・連携事業」のほか、多様な活動を行っています。要請によっては学校を活動対象としているものもありますが、広く地域住民の方々を対象にしている要請もあります。また、面接ではご自身のこれまで経験や身に着けたスキル、協力隊に参加したい思いを存分にアピールしてください。</p>
	<p>現在65歳です。大手小売業一筋でバイヤー、営業副店長、副店長の経験しかありません、日本とは比べるまでもなく恵まれない国でなにかできることはないかと思っています。</p>	<p>「マーケティング」や「経営管理」には、大手流通のバイヤー、副店長等の経験を活かせる各種商品の商品開発や販売促進・販路拡大支援等の要請もあるかと考えますので、実際の要請内容をご確認ください。JICA海外協力隊ウェブサイト-「シゴトを見つける」▶「一般案件」あるいは「シニア案件」▶「シゴトを探す」から実際の要請・職種情報を参照してください。（現在、募集が終了した2020年春募集時の要請情報が閲覧できます。）</p>
	<p>英語は日常会話程度話せますが、スペイン語圏への派遣を希望しています。サービス業で海外のお客さま相手の仕事をしていますが、どのような職種があてはまりますか。</p>	<p>派遣国がスペイン語圏の場合、選定指定言語や活動使用言語が英語またはスペイン語となっている要請があります。サービス業でお客様と接する機会が多い経験・スキルを活かすには、地域住民の方々と接する機会が多い、「コミュニティ開発」や「環境教育」、あるいは「観光」などもあります。</p>
	<p>問題を解決する能力を高める為にコンサルティングの仕事に一旦就いてから、協力隊への参加を検討しています。コンサルティングで働くことに有利になることはありますか。</p>	<p>「経営管理」職種などは直接コンサルティング経験が活かせる職種であるかもしれませんが、他にももし特定の専門分野のコンサルティング業務に従事するのであれば関連職種の協力活動に活かせるのではないかと考えます。また、問題解決能力は全ての協力隊活動に役立つ資質の1つです。</p>
	<p>5年後に定年予定、新しい社会をみたい。海外での生活とボランティアで人の為に尽くしたい。どんな職種が適切か相談したいです。</p>	<p>シニア案件は実務経験15年以上を必要とする要請群ですが、一般案件にも応募いただくことができます。これまでにどういった経験を積み、どのようなスキルを身につけているのか、また、業務経験以外でも特技を生かした貢献が出来るそうか、などご自身で振り返っていただき、それらを生かせる適切な職種の要請を選択してください。JICA海外協力隊ウェブサイト-「シゴトを見つける」▶「一般案件」あるいは「シニア案件」▶「シゴトを探す」から実際の要請・職種情報を参照してください。（現在、募集が終了した2020年春募集時の要請情報が閲覧できます。）</p>

質問		回答
	シニアで日本語教師での派遣を希望しています。希望者が多いと聞いていますが、職歴は関係ありますか。	<p>一般案件の職種「日本語教育」に応募して参加されるシニア年齢層の方の中には、日本語教育に携わって来られた方だけでなく、他の分野での経験を積まれた後、日本語教育の道に進まれた方も少なくありません。但し、ほとんどの要請において、資格条件として「日本語教育に関する資格」(420時間程度の日本語教師養成講座の修了(通信講座含む)/大学または大学院の日本語教育主専攻・副専攻の修了/日本語教育能力検定試験合格のいずれか)が求められていますので、日本語教育に関する知識は必要です。日本語教育の実務経験がなくても応募が可能な要請もありますが、即戦力として、教育機関で日本語の授業を行うことや同僚教師の成長を助けることが求められる派遣先がほとんどですので、クラス形式での授業を経験しておくことをお勧めします。</p> <p>「シニア案件」では、多くの要請で十分な専門技術や知識、豊富な経験(日本語教育の実務経験15年程度以上)が求められています。</p>
職種(日本語教育)について	日系社会で教育系の仕事をするには、日本語教師の資格や経験が必要ですか。	<p>中南米の日系社会からの教育系の要請には、職種「日本語教育」が多くあり、ほとんどの要請で、資格条件として「日本語教育に関する資格」(420時間程度の日本語教師養成講座の修了(通信講座含む)/大学または大学院の日本語教育主専攻・副専攻の修了/日本語教育能力検定試験合格のいずれか)が求められています。日本語教育の実務経験がなくても応募が可能な要請もありますが、即戦力として日本語を教えることが求められる派遣先がほとんどですので、日本語を教える経験をしておくことをお勧めします。日本語の他に、年少者への教育経験、情操教育の経験などが求められる要請もあります。</p> <p>また、日系社会の教育系の職種としては、職種「日本語教育」以外にも、「小学校教育」「青少年活動」「体育」やスポーツ系職種などもあり、日本語を教える活動が含まれる場合であっても日本語教育の資格や経験が求められることは稀です。</p>
	日本語を教えたいと考えていますが、資格は持っていません。現在日本語教育能力試験の勉強をしています。英語の勉強をも必要です。仕事をしているのであればこれも厳しいのですが、どちらを優先すべきですか。	<p>応募には最低限、語学力Dレベル(英語の場合、英検3級、TOEIC330点)、要請によってはそれ以上が資格条件になっている場合もあります。また、職種「日本語教育」のほとんどの要請において、資格条件として「日本語教育に関する資格」(420時間程度の日本語教師養成講座の修了(通信講座含む)/大学または大学院の日本語教育主専攻・副専攻の修了/日本語教育能力検定試験合格のいずれか)が求められます。</p> <p>よって、日本語教育に関する資格、英語Dレベル以上、いずれも必要となります。</p>
	65歳ですがベトナムで日本語教師をしたいと考えています。募集がありますか。	<p>年齢を含む応募要件については、各回の募集要項にて応募要件をご確認ください。今後の募集・選考については、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえつつ判断します。どの国からどんな要請があるかも募集時期によって異なり、それぞれの要請によって資格条件も異なります。</p> <p>参考として、2020年春募集においてベトナムからの職種「日本語教育」の要請は「一般案件」で6件あり、そのうち20～45歳の制限がある要請は1件、そうでない要請は5件でした。</p>
現職教員特別参加制度について	教員の現職採用について、倍率や条件など情報を教えてください。	<p>「現職教員特別参加制度」は、参加年度当初に勤続3年以上の実務経験が必要で、対象年齢は応募時に20歳～45歳までの教員の方となっています。推薦時の倍率は各自治体により異なります。</p> <p>詳細は、JICA海外協力隊ウェブサイト-「企業・自治体・学校関係者の方へ」▶「学校関係者の方へ」▶「詳細を見る」 ( <a href="https://www.jica.go.jp/volunteer/relevant/school/">https://www.jica.go.jp/volunteer/relevant/school/</a> ) を参照ください。</p>
	現在教員2年目です。現職教員制度には派遣時点で3年以上の経験が必要とのことですが、来年度応募することは可能ですか。	<p>「現職教員特別参加制度」は参加年度当初に勤続3年以上の実務経験のある方が対象となっていますので、JICAの提示する条件としては応募いただいて問題ありません。但し、都道府県・指定都市教育委員会によって応募資格が異なることもあるため、事前にご自身が所属する教育委員会にお訊ねください。</p>
派遣について	派遣先の国はどのようにして決定しますか。	<p>応募者の希望や経験を鑑みて要請・派遣国を決定していきます。</p>

	質問	回答
派遣について	<p>学歴によりvisaが降りにくい国があると思いますが、合格後visaが降りない場合は、同じ職種内容で他の国へ赴任となる場合もありますか。</p>	<p>VISA等も考慮しながら、派遣国を決定していきます。派遣国によっては、大学卒業証明書や資格証明書の提出を要請される国もあります。ただし、情勢により直前で他の国に振替になるということもごく稀にあります。</p>
	<p>一緒に研修を受けた人と派遣される国が同じ国でも派遣先の職場がバラバラになるのでしょうか。派遣先の職場への派遣人数なども教えてください。</p>	<p>派遣国が同じでも要請によって配属先、任地は異なります。（グループ派遣という活動形態もあり、この場合、同じ任地となります。）</p>
	<p>配属先が決まったら、どんな環境のところが教えていただけますか。</p>	<p>配属先情報については合格発表時に合格通知とともに一緒にご案内させて頂く、要望調査票をご覧ください。要望調査票には配属先の同僚の情報や活動で利用できる資材・機材の情報が記載されています。気候や生活インフラについても記載されています。その他の生活環境や職務環境については現地で収集いただく必要がございます。またJICA海外協力隊HP&gt;赴任前留意事項（現在はコロナ禍前の情報）で任地の状況について知ることができます。</p>
派遣中について	<p>来年退職したのちに参加を考えています。来年60歳ですが、待遇はどの程度のものでしょうか。</p>	<p>派遣中の待遇は、国内手当(派遣前訓練中にも適用)、現地生活費、住居費、往復渡航費、現地業務費などの費用をJICAあるいは受入国政府が負担します。詳細はJICA海外協力隊ウェブサイト-「よくある質問」「派遣中の待遇について」（<a href="https://www.jica.go.jp/volunteer/faq/">https://www.jica.go.jp/volunteer/faq/</a>）を参照ください。</p>
	<p>滞在中の日本とのやりとり（メールや就職活動）はどの程度出来ますか。</p>	<p>インターネット等の通信環境が整っている赴任地であれば、Eメール等を活用した日本とのやり取りは自由です。就職活動については、活動以外の時間を利用するのであれば自由ですが、JICA海外協力隊の活動のために派遣されていることを自覚した行動をとっていただく必要があります。</p>
	<p>現地では通訳の方がいらっしゃるとお聞きしたことがありますが、実際にいますか。</p>	<p>現地に通訳はおらず、語学に関しては現地に行ってから自己研鑽にて語学力向上を図っていただきます。</p>
	<p>現地で実施する業務は派遣前に決まりますか。それとも派遣されてから現地で決まるのですか。</p>	<p>活動内容(業務)は、要望調査票に記載の通り派遣前に決まっていますが、赴任後、現地でのニーズが変わり、活動内容が変わる場合があります。いずれにしても、協力隊員は派遣された派遣国の配属先・任地において課題を見つけ、課題解決のために現地の人々と共に課題を解決していくことが活動の基本です。</p>
	<p>配属後の住居はなにか寮などがあるのでしょうか？それとも現地のアパートなどを借りる形で援助して頂けるのですか。</p>	<p>住居は派遣国や配属先によって異なります。ホームステイ、現地の一戸建てや集合住宅。あるいは配属先に併設されている住居棟です。</p>
	<p>健康診断が半年に一度は必要ですが現在は健康です。現地で受けられますか。</p>	<p>現地のJICA事務所が指定する医療機関で派遣期間中、1回健康診断を受けます。それ以外の健康診断については任意、自己負担で受けることとなります。また各派遣国には日本の看護師免許を取得した在外健康管理員が隊員の健康管理をサポートします。また、派遣国によっては現地医療機関と顧問医契約を結び隊員がより信頼のおける医療を受けられる体制も整備しています。</p>

質問		回答
語学力について	67歳です。留学生（学生）の派遣、受け入れのボランティアをしています。英語ができないので、英語圏を希望したいと思いますが可能ですか。また、帰国後の支援について教えてください。	JICA海外協力隊の応募には、英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、イタリア語、ポルトガル語、ロシア語、中国語、韓国語、タイ語、インドネシア語いずれかの言語のDレベル以上Dレベルのスコアが必須です。英語Dレベルは英検3級、TOEIC330点以上です。一方で、もっと高い語学力が要求される要請もありますし、そうでない要請であっても、実際に現地で生活し、活動する上ではこのレベルでは足りないので、ご自身であらかじめ、継続的に語学力向上に努めていただくことをお勧めします。 また、帰国後の支援については、帰国後、2日間、帰国時面談(報告会)や健康診断、オリエンテーションやカウンセラー講座等の帰国時プログラムの実施によるサポートがあります。 詳細は、JICA海外協力隊ウェブサイト-「よくある質問」「帰国後の進路について」( <a href="https://www.jica.go.jp/volunteer/faq/">https://www.jica.go.jp/volunteer/faq/</a> ) や事業概要(*)13p.14pを参照ください。 * JICA海外協力隊ウェブサイト-「事業概要」▶「パンフレット・事業報告書」▶「JICA海外協力隊事業概要」で閲覧できます。
	大学で、英語とフランス語を勉強しているのですが、語学力という面では厳しいですか。	JICA海外協力隊の応募には、英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、イタリア語、ポルトガル語、ロシア語、中国語、韓国語、タイ語、インドネシア語いずれかの言語のDレベル以上Dレベルのスコアが必須です。英語Dレベルは英検3級、TOEIC330点以上です。それを満たしていない場合は、語学の勉強をして条件をクリアして下さい。また、語学的能力だけで合格となるわけではなく、それぞれの要請に応じた適性(場合によっては資格や実務経験)をお持ちである必要があります。
帰国後の就職について	協力隊から帰国した後に、就職カウンセラー等の支援があるのか知りたいです。	帰国後、青年層の帰国隊員を対象に円滑に進路開拓が進められるように研修・進路開拓セミナー等の研修を行い、全国に配置された進路相談カウンセラーや青年海外協力隊相談役が進路相談や就職・進学等の情報を提供しています。 詳細は、JICA海外協力隊ウェブサイト-「よくある質問」「帰国後の進路について」( <a href="https://www.jica.go.jp/volunteer/faq/">https://www.jica.go.jp/volunteer/faq/</a> ) や事業概要(*)13p.14pを参照ください。 * JICA海外協力隊ウェブサイト-「事業概要」▶「パンフレット・事業報告書」▶「JICA海外協力隊事業概要」で閲覧できます。
	帰国後はどのような仕事に就く方が多いのですか。また、就職の支援について詳しく教えてください。	帰国後の進路についてですが、 ・就職/48.8% ・現職参加復職/30.2% ・進学・復学/7.7% ・アルバイト・非常勤/8.9% ・家事手伝い/4.4% となっています。 就職する方の内訳は、 ・民間企業/38.5% ・公益法人・独立行政法人/19.0% ・地方公務員(教育職)/12.6% ・地方公務員(行政職)/8.6% ・JICA関係/9.4% ・NGO/NPO/4.5% ・外交・国際機関/2.1% ・国家公務員/1.1% ・自営・企業/0.3% ・その他4.3% となっています。 * 2018年4月1日～2019年3月31日までに帰国した青年海外協力隊及び日系社会青年ボランティア(計973名)へのアンケート調査より。回答者数、766名。  また、就職への支援については帰国後、主に青年層の帰国隊員を対象に、円滑に進路開拓が進められるように、研修・進路開拓セミナー等の研修を行い、全国に配置された進路相談カウンセラーや青年海外協力隊相談役が進路相談や就職・進学等の情報を提供しています。 詳細は、JICA海外協力隊ウェブサイト-「よくある質問」「帰国後の進路について」( <a href="https://www.jica.go.jp/volunteer/faq/">https://www.jica.go.jp/volunteer/faq/</a> ) や事業概要(*)13p.14pを参照ください。 * JICA海外協力隊ウェブサイト-「事業概要」▶「パンフレット・事業報告書」▶「JICA海外協力隊事業概要」で閲覧できます。
その他	シニア青年海外協力隊の各職種別の平均年齢が知りたいです。	職種ごとの平均年齢は算出していません。